

参考文献リストを作る

1. 引用文献と参考文献

引用文献とは、自分の文章に利用した他者が作成した文章や図・表、参考文献とは、文章を作成するために参考資料として利用したのみで直接引用しなかった文献のことを指します。引用文献、参考文献は、論文やレポートに「注」や「参考文献リスト」等として明記する必要があります。

また、見つけた文献に示されている引用文献や参考文献を手がかりとして、自分が興味のある関連文献を見つける方法も文献探索に有効です。

2. 参考文献の書き方：書誌情報の控え方

参考文献を記述するために控える情報（「書誌」「書誌情報」）は、資料毎に決まっています。ただし、表記の細かなルールは学問分野によって異なるため、必ず提出先に確認しましょう。また、「レポート・論文作成の参考になる本」（p.18）なども参考にしてください。

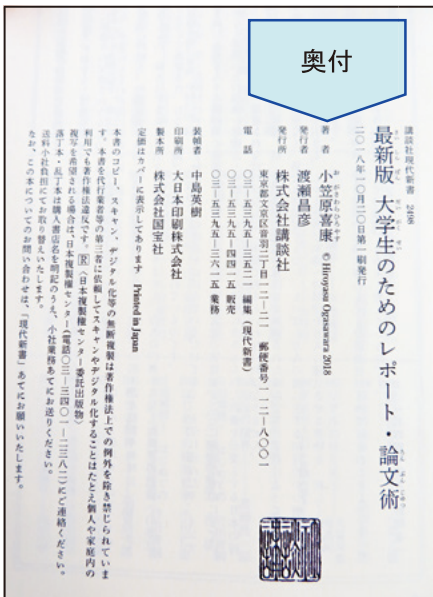
●図書資料の場合●

- ①著者（编者、団体名）②出版年 ③書名 ④版表示 ⑤出版社 ⑥総ページ数 ⑦シリーズ名・番号
- ※引用文献として書く場合は、⑥に引用元のページを書く。

小笠原喜康^① (2018)^② 『大学生のためのレポート・論文術』^③ 最新版^④ 講談社^⑤ 234p^⑥
 (講談社現代新書 2498) ^⑦

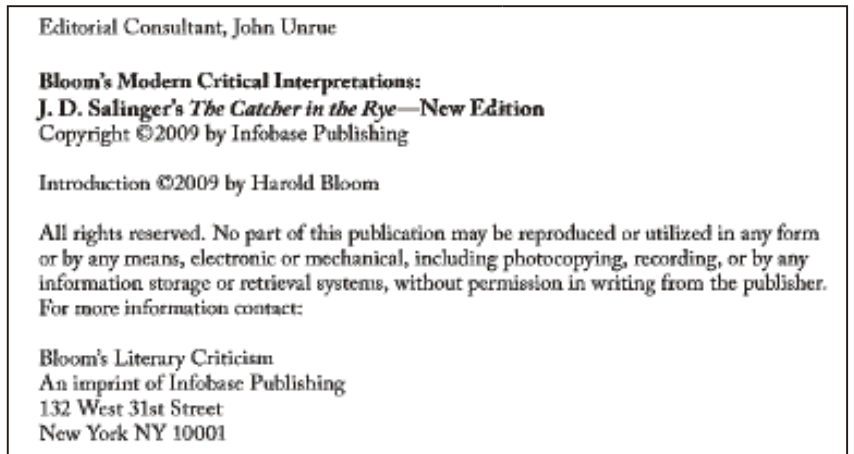
Bloom, Harold^① (2009)^② *J. D. Salinger's The Catcher in the Rye*^③ new edition^④
 Bloom's Literary Criticism^⑤ 215p^⑥ Modern Critical Interpretations^⑦

〈和書-日本語で書かれた本〉



和書の書名は『 』に入れます。
 和書の場合、書誌情報は巻末の「奥付」を参考に作成するとよいでしょう。

〈洋書-外国語で書かれた本〉



洋書の書名はイタリック体、著者名は外国人名も姓・名の順で書きます。
 また書誌情報は、和書と異なり、冒頭部分(中表紙の次のページ)に掲載されています。

●雑誌論文・記事の場合●

①執筆者 ②発行年月日 ③論文・記事名 ④掲載雑誌 ⑤巻号 ⑥掲載ページ (⑦URL と閲覧年月日)

田隈広紀^① (2021)^② 「論文の書き方講座：論文の書き方」^③ 『P2M マガジン』^④ (7)^⑤ 7-10^⑥
https://doi.org/10.20702/iaptwombulletin.7.0_7 (2023年4月1日最終閲覧)^⑦

Wood, R.^① (1995)^② “Marriage Rates and Marriageable Men : A Test of the Wilson Hypothesis”^③
The Journal of Human Resources ^④ 30(1)^⑤ 163-193^⑥

「執筆者名」「論文・記事名」は雑誌の目次も参考になります。

「掲載雑誌名」「巻号」は、雑誌の表紙や裏表紙、奥付に記されています。

近年では、インターネット上で提供・閲覧できる論文もあります。その場合は、DOI やアクセス先のURL とともに最終閲覧年月日も控えてください。

執筆者名は、姓・名の順で表示します。

外国人の場合は、姓のあとに「,」を付け、スペースを半角1文字あけて、名を記述します。

外国語の論文は、掲載雑誌をイタリック体で表示、雑誌名を略称で記述すること、などのルールもあります。

略称の例

Journal of Applied Psychology の場合

- Jou. Appl. Psych.
- J. Appl. Psych.
- J. Appl. Psychol.

●書誌情報：新聞記事の場合●

①執筆者名 ②記事タイトル ③新聞名 ④発行年月日 ⑤朝夕刊 ⑥ページ(面)

石田貴子^① きのこ会から学んだ使命 女優・斉藤ともこさん、広島修道大で講演／広島県^②
 朝日新聞^③ 2009年5月23日^④ 朝刊^⑤ 31ページ(広島1)^⑥

新聞記事は、記事で一番大きな見出しを記事タイトル、小見出しを副タイトルとします。署名記事の場合は、必ず「著者名」を控えましょう。また、地域名、地方名等があれば、そちらも記述します。

●書誌情報：インターネット資料●

①著者名(ページ運営者名) ②発表年月日 ③ページタイトル ④URL(アドレス) ⑤閲覧年月日

文化庁^① 2019年10月25日^② 公用文等における日本人の姓名のローマ字表記について(令和元年10月25日文科科学省大臣官房長,文化庁次長通知)^③
https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/ki_jun/sanko/gairai/pdf/roma_hyoki_02.pdf^④
 (2023年4月1日最終閲覧)^⑤

インターネット上の情報は、速報性がある一方で、図書や雑誌と違って書き換えや差し替えが容易なため、閲覧した日で情報が異なったり、中には信用できない内容もあります。

参考文献に利用する場合は、サイト運営者の信頼性が高い(例:政府機関、官公庁、学術学会等団体)、公開日・更新日が明記されている、等を確認しましょう。

この場合、URL とともに閲覧年月日を記載することで、閲覧した年月日にその情報が公開されていたことを示すとともに、当該URLの情報をプリントアウトまたはデータ保存しておく安心です。